

令和7年度全国学力・学習状況調査結果概要及び改善の方向等について

札幌市立美香保小学校

【国語】

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
【内容】 「思考力、判断力、表現力等」 ☐ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」において、全国平均を下回っている。 「知識及び技能」 ☐ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国平均を上回っている。 ☐ 「情報の扱い方に関する事項」において、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 ☐ 我が国の言語文化に関する事項において、全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること及び、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること ●書く内容の中心を明確にし文章の構成を考えること及び、目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように書き方を工夫すること ●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること ●事実と感想、意見度との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと	○授業における言語活動の一層の充実を目指し、自身の考えを表現する機会、協働的な学びの場を一層充実させる。 ○作文に取り組む機会の確保及び、目的や意図に応じて書き出しや構成を考えて書く学習活動を充実させる。 ○読解力の向上のため、読書活動の充実や日常的に文章に親しむ機会を増やし、語彙力や理解力の底上げを図る。 ○「読むこと」同様、読書活動の充実や日常的に文章に親しむ時間を確保し、様々な言葉に触れる機会を増やす。

【 算 数 】

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

小 学 校 算 数

【領域】

「数と計算」

□全国平均を下回っている。

「図形」

□全国平均を下回っている。

「測定」

□全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「変化と関係」

□全国平均とほぼ同程度である。

「データの活用」

□全国平均を下回っている。

- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること
- 小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉えること
- 数直線上で、1の目盛りに着目し分数を単位分数の幾つ分としてとらえること
- 異分母分数の加法の計算をすること

- 平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図すること
- 角の大きさについて理解すること

- 伴って変わる二つの数量の關係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること

- 目的に応じて適切なグラフを選択して数値の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
- 簡単な二次元の表から条件に合った項目を選ぶこと

○各領域において、基礎内容をしっかりと定着させるために、習熟を図る時間を確保する。

○用具の操作習熟と合わせ、作図の手順についての理解を深める。

○どの領域においても、結果を求めるだけではなく、その過程についても式や図、言葉で説明する機会を増やす。

○他教科との関連を意識し、数値の意味を理解できるような手だてを講じる。

【 理 科 】

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
小 学 校 理 科	【領域】 「エネルギー」を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●身の回りの金属について電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いていること ●電流が作る磁力について電磁石の強さは巻き数によって変わることの知識が身に付いていること ●乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いていること	○金属の定義等、基礎的学習内容が定着されるように、各単元の導入の際、前学年までに学んだことを再確認する時間を確保する。
	「粒子」を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現すること ●「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し表現すること	○予想を立てる際に、生活経験や学習経験とのつながりを想起する場をつくり、根拠をもてるようにする。
	「生命」を柱とする領域 □全国平均を下回っている。	●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いていること ●発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現すること ●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見しだし、表現すること	○実験の機会において、目的や手順について明確にできるよう、共通のものと差異のある条件の設定を明確にする等の経験を積ませる。
	「地球」を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度である。	●赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して表現すること ●氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解していること	○実験結果に対する考察の時間を保障し、何が明らかになって、何がまだはっきりしていないのかを整理する過程を丁寧に扱う。